

第112回昇級審査会 27名が受審、全員合格

6月17日(日)、9時15分から、三木市加佐コミュニティスポーツセンターで、少年指導部による第112回級位認定審査会が行われた。市内各地で稽古に励む小学生や一般社会人までの合計27名が受審した。

開会に際し、小椋治朗三木市剣道連盟副会長が、「元氣な剣道を見せてください。そして大きな声で受審すれば必ず合格します」



と選手たちを激励した。また、審査の注意の中で小林哲也少年指導部長は、「掛かり手の打ちだけでなく、元太刀の受け方も正しくできていないといけません」

級位審査の方法は、試合形式での勝敗によるものではなく、級位ごとに定められた技を、掛かり手と元太刀が相互に出し合い、一定の基準のもとに正しい打ちができて



いるか、また正しい受けができていないかを、5人の審判員が判定する。今回の審判員は、小椋治朗、檜皮隆夫、大柴敏昭、大西健、小林哲也の5名。受審者の数は、2級から5級まで計27名。保護者や教室の指導者がドキドキしながら見守る中、受審者は緊張しながらも、日ごろの練習の成果を見せようと大きな気合を入れて試技を繰り出していた。

二級・三級の「木刀による剣道基本技稽古法」の審査を終えたのは10時30分。集計結果が発表されたが、27名全員が合格という嬉しい結果となった。

志染スポーツ少年団で稽古をしている山下さん(8歳)は、「合格

してとてもうれしい。稽古では、すり足を一生懸命がんばった。」とほえんだ。

三木平田少年剣道教室の藤田さん(11歳)は、5年生になってこの5月から剣道を始めたばかりの5級受審。

「週2回のいつもの練習に加えて火曜日も練習してがんばった。教えてくださった先生に感謝しています。本当にありがとうございます。」と笑顔で答えた。

子どもたちに交じって一人目を引いたのが一般成人として2級を受審した自由が丘少年剣道教室の萩原(すぎはら)さん(69歳)。嬉しい合格を手にし満面の笑み。

「次の目標は、兵庫県剣道連盟の認定する一級、そして初段取得です。教室生募集のポスターを見て興味をもって剣道を始めました。とてもうれしい。」

とのこと。高齢でも楽しくできる剣道。老若男女それぞれが次の段級位を目標に、これからも剣道の道は続くだろう。

すべての審査終了後、同会場少年指導部の主催による少年合同稽古会が行われた。

今日の受審者をはじめ、市内各教室の小学生部員52名と指導者14名、計66名が体育館いっぱい広がって稽古をすること約1時間、さわやかな汗と笑顔の充実した半日となった。

(報告 澤田 薫)